

U-ホーム

U-Home

だより

〒708-1222
岡山県津山市西中 329-1

株式会社 **U-ホーム**

TEL 0868-36-4372

FAX 0868-36-4498

✉ u-home@mx1.tvt.ne.jp

第 65 号

2017年の年初にあたり、この一年
皆様方が健康で楽しく過ごせますように
お祈り申し上げます。



昨年末は非常に悪天で、お日様を見ない日が続きましたが、年が変わったとたん一変し、正月三が日は非常に好天でした。特に元日はびっくりするような陽気で、南側においてある温度計は、壁に近いせいもありますが、昼過ぎにはなんと29.8℃を示していました。しかし、三が日とも朝は霧が込んでいて、先が見通せない今年の情勢を占っているようでした。それにしても毎年この時期にこんなに霧が出ていましたっけ？

今年の日本経済は引き続き緩やかな回復を示すだろうと言っていますが、そろそろ実感できる景気回復にしなければ、来年に迫っている消費税アップをまた延期しなければならなくなるぞ！と言いたい気分であります。安倍首相は新年のあいさつで、今年も経済最優先で推し進める、三本の矢を打ち続けると言いましたが、「弓折れ矢尽きる（力尽きてどうにもならなくなる）」とならなければよいのですが。

今年の日本経済はどうなるのでしょうか？おそらく、1月20日にアメリカ大統領に就任するトランプさんの言動に、木の葉のように揺れ動くことに終始するのではないのでしょうか？株式市場はトランプ効果で経済が上向くと期待し、選挙直後から上昇を続けていますが、アメリカ至上主義でやると言っている人に日本の景気回復を期待するのは、人が良すぎるのではないのでしょうか。

2017年の干支は酉年ですが、干支とは十干と十二支組合せで、正確には今年は丁酉（ひのと）です。五行説では、十干の丁（ひのと）は火の性質を持ち、十二支の酉は金の性質を持ちます。すなわち丁と酉の関係は「相克（相争うこと）」の関係にあります。すなわち、丁酉の年はあまりうまくいかない年ということになります。

また別の考え方では、丁は樹木が安定して伸びていることを意味し、酉は果実が熟しきっていてこれ以上成長しないことを意味します。すなわち今年の丁と酉は矛盾していて、順調にはいかない年だということになります。

このように書くと、なんだ今年は全然ダメじゃん、と思われそうですが、私の好きな言葉に「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。

皆がうらやむような成功を収めた人でも、その努力の裏で家庭が崩壊していてとても不幸かもしれない。あるいは、特別な才能のなくうだつの上がらないように見える人でも、地道に努力をかさね、仕事も家庭もプライベートもとてもバランスよくうまくいって、とても幸せかもしれない。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないということでしょう。



世の中は常に変化してゆきます。今年はあまり良くない年だなんて考えるのはナンセンス、今現在を精一杯生きようということではないでしょうか。

とは言っても私も商売人のはしくれ、酉年の「トリ」は「取り込む」の意味に転じ、運氣やお客様を取り込むということで**商売繁盛**の年でもあります。今年もたくさんのお仕事を「トリ込める」ように密かに祈りするのであります。

このように、今年も「トリ」とめのない話で始まりましたが、「ユーホームだより」今年も頑張って続けていこうと思いますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

ユーホームは、昨年も多くのお客様から本当にたくさんのお仕事をさせていただきました。誠にありがとうございます。

ユーホームは、一昨年からは電気工事も自社社員で行うようになり、これで給排水工事も電気工事も下請けなど他社を頼らずに、すべて自社社員のみで行えるようになりました。このような形態の工務店は、全国的に見ても非常に珍しいことだということです。

ユーホームは、ひとえにお客様満足のため、より良質でより均質なサービスをお客様にお届けすることを使命と考えます。ユーホームはその使命を完遂するため、社員一同一生懸命努める所存ですので、何かご用命がありましたらぜひユーホームへのご指名を賜りますようお願い申し上げます。



皆様にお知らせしましたとおり

ユーホーム創業者 **内田 茂良** が

平成28年12月11日（享年84歳）に急逝いたしました。

生前にたまわりましたご厚情に感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

学校の教諭やお医者さんはたいてい誰でも「先生」と呼びます。お寺のお坊さんの場合なんとお呼びするのが良いのでしょうか？

初めて直接お話ししなければならなくなり慌てます。考えてみればお坊さんの呼び方はたくさんあると思います。

「お坊さん」「和尚さん」「ご住職さん」「お上人さん」「お寺さん」「お住持さん」「方丈さん」「ご院主さん」「ご院家さん」「ご当院さん」「僧正さん」……

おそらく、親しみを込めてお呼びするなら、どんな呼び方でもよいのだろうと思います。が少し迷うところでもあります。調べてみました。

真言宗：和尚（わじょう）

天台宗：和尚（かしょう）

浄土宗：和尚（おしょう）

臨済宗：和尚（おしょう）

日蓮宗：上人（しょうにん）

曹洞宗：方丈さん

ということです。先代は真言宗でとの遺言でした。ということは「わじょうさん？」ってそんな呼び名聞いたことがない。「わじょうさん」は却下とします。

真言宗の場合、ご年配の方が「おじゅっさん」と呼ぶのをよく聞きます。お坊さんはなにか術を使うように見えるので、「お術司さん」かなと思っていましたが、どうも「お住持さん」がなまって「おじゅっさん」になったようです。関西の方ではさらになまって、「おっさん」と呼ぶところもあるらしいのですが、いわゆる関西弁でおじさんの事をさす「おっさん」とは少しイントネーションが違うらしいです。さすがに関西弁で「おっさん」と呼ばれたらよほど寛容なお坊さんでもすこし「ムッ」とするのでは？

会社の前の法光寺様は日蓮宗で、誰もが皆「お上人」とお呼びするのでわかりやすく良いですね。たいていはどの宗派でも正式な職名というものがあり、その職名でお呼びするのが正式でしょうが、そんな職名などは知らない人が多いと思いますので、なにかもっと統一したものがあったらよいですね。

紅葉狩り（後編）

このまま待っていたのでは日が暮れる、たとえ通天橋を渡れなくてもよい、と思い右側の通路の方に進みました。すると向こうの方でハンドマイクでアナウンスする声がかすかに聞こえます。「右側の通路の方が空いています。右側にお回りください。」

ということは右側に行っても通天橋の方へ回れるのかも？右側の通路の方へ進むと人はまばら、わずか数分で谷底まで降りることができました。谷間で降りて左側の通路が進まない訳がわかりました。谷川に掛かる石橋のところでは、谷の上流の写真を撮る人ばかりで身動きが取れないほどです。その人の群れが左側通路の出口を塞いでいたわけです。

私は以前からこのユーホームだよりで言ってきました。人は本来左側通行をする性質を持っていると。これが今回も見事に証明されたわけです。入口すぐから左右に分かれる道を、ほとんどの人が迷うことなく、左側の通路を選択したということです。左側通路の方は残念だけど、あと数時間は並ばなければならないな、と思いながら通天橋の方に上って行きました。

落下の危険性があるから、今年初めて橋の上での写真撮影禁止を決め、さらに橋の上で立ち止まることを禁止したというので、どれだけ厳しい規制があるのかと思っていましたが、なんとみんなしっかり立ち止まり、欄干によりかかり写真を撮っていました。あのニュースはいったい何だったのでしょうか？

朝来た時に、東福寺山門に至る手前で臥雲橋を渡ります。その橋の上では、係員が大きな迫力のある声で、「立ち止まらないでください！」と怒鳴っているから、写真を撮ろうとしている人はいませんでした。しかしここ通天橋では、係員は居ることには居るが、一言も発しません。ということでほとんどの人が撮影していたようでした。

で、京都一番の紅葉だったか？といえば、私的には5本の指にも入らないくらいだったような？感じです。

早々に退散して、東福寺より東の方にある「御寺 泉涌寺」の方へ歩いてゆくことにしました。敷地内に歴代数名の天皇の陵墓があることから、皇室の陵墓として「御寺（みてら）泉涌寺（せんにゅうじ）」と呼ばれているということです。

御座所建物から御座所庭園を拝見させていただきました。御座所庭園はこじんまりとした庭園ですが、低い築山と曲折した池の汀には、今まさに散り始めた黄と朱のもみじが散りばめられていて、松やさつきの青とのコントラストが鮮やかで、それはそれは見事なお庭でした。ここまでやってくる観光客は意外に少なく、ゆったりとあたりを散策することができました。

車を停めた東福寺駅の近くまで帰ってきて、ものすごい人出にビックリです。来た時に大勢の交通整理らしき人が駅の周りにいたので、いったい何事だろうと思っていたのですが、この人出を見て納得です。

このような人出を見ていると、認めたくはないけど、景気は少し上向いたのかも知れないと思わざるを得ませんでした。

平成 29 年 1 月 5 日



谷底に掛かる石橋のあたり



開山堂方向から本堂を望む



通天橋から臥雲橋方向



御座所庭園を望む一番良い部屋に天皇陛下の玉座がありました。
(今見てみると、撮影はご遠慮願いますと書かれていました。)



御寺 泉涌寺の御座所庭園